



新人看護師研修

～1年間を振り返って、今後の抱負～

昨年4月、不安と緊張の中、川内市医師会市民病院の職員として採用された新人看護師も早くも一年を迎えようとしています。病棟師長、教育委員をはじめ、プリセプターの方々、臨床でのノウハウを教えてくださいました先輩方、温かく見守りご指導いただき、ここまで成長することができました。また、お互い励まし合った仲間の存在も大きかったと思います。4月には新しい新人看護師を迎えるにあたり、さらなる成長を期待したいと思います。（教育指導担当師長 久保）

4階東病棟 久保

最初は不安でしたが、先輩方のご指導のもと無事1年を終えることができました。様々な部署で研修させていただき、その部署でしか学ぶことのできないことを学ぶことができました。4東病棟に配属となり、化学療法や気管支鏡検査、心臓カテーテル検査など様々な経験をし、少しずつできることが増えてきて、楽しく働くことができます。今後も更に成長できるように日々取り組んでいきたいです。また、4月より新人看護師も就職してくるので、良い見本となるよう頑張っていきたいです。

3階東病棟 宇都

振り返ると、忙しく学ぶことの多い1年でした。看護師1年目、社会人1年目として、学生時代とは環境や生活リズムも変わり、慣れることに必死でした。看護師として働きだし、患者さんを通して自分の知識や技術の未熟さを改めて自覚しました。この1年間で先輩看護師や患者さんから教えて頂いた事を自分の身になるように、振り返りを行っていききたいと思います。来年度は看護師2年目で先輩にもなる為、人に教えられるぐらい知識・技術面を磨いていきたいです。

4階東病棟 西村

1年を通し、各部署での研修の中でたくさんの経験を得ることが出来ました。初めは何をするにも緊張し、落ち込んでしまう事も多々ありましたが、周囲のスタッフの励ましや支えのもと少しずつ業務にも慣れることが出来ました。今後は疾患や薬剤についての知識や繋がりについて理解を深め、更に日々の看護に役立てるよう取り組み、患者さんに寄り添った看護ができるよう改善していきたいです。初心を忘れず、確実に安全な看護を実践していけるよう今後も努力していきたいです。

手術室 堀田

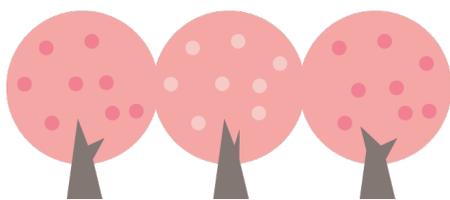
新人ローテーション研修では各部署のプリセプター・エルダー、その他たくさんの先輩方から、基本的な看護技術・看護記録の方法・患者さんとの接し方など、患者さんに関わる上で必要なことをたくさん学ばせていただきました。手術室に配属となり、新しいこと・聞きなれない言葉や見たことない機器など、勉強をする毎日です。先輩方にも支えていただき、できることも少しずつ増えていきました。まだまだ至らないことも多く、学習面・技術面での不足を感じているので、新年度を迎える上で新たな気持ち・初心の心を忘れずに毎日を充実させていきたいです。今後もよろしくお願いいたします。

3階西病棟 八丸

新人技術研修から始まり学生の頃は行わなかった採血や点滴のルートキープなどの看護技術を教わり、いよいよ本格的に看護師としての道を歩むことになる責任の重さとともに新しい環境への期待に胸が膨らむ思いでした。ローテーションが始まると各病棟や手術室・外来で様々な疾患の患者さんと出会いました。知識・技術の不足からできない自分に落ち込むこともありましたが、指導して下さったプリセプターやスタッフの方々、師長さんたちからの言葉や患者さんから頂く温かな笑顔で元気を貰えました。この一年間を過ごすことができ本当に良かったです。来年度からは2年目として、皆様から頂いたものを少しでも返せるように精進していきたいと思います。

4階西病棟 土田

私はローテーション終了後、脳神経外科病棟へ配属となりました。脳神経は複雑な仕組みであるため、苦手な分野でした。半年が経ち、業務には慣れましたが解剖生理と疾患を繋げて考える事は難しく日々考えさせられることばかりで、自分の勉強不足を感じます。入院される患者さんのほとんどの状態が急性期で、意識レベルが三桁の方など状態が悪い方も多く、現場は緊張感に張り巡らされています。しかし患者さんがリハビリして良くなっていく姿が目に見えるため、とてもやりがいを感じる場でもあります。このような脳神経の現場を目の当たりにして苦手だといって避けてきた脳神経にも興味が出てきました。今は知識を深めて私も患者さんへの退院支援が行えるようになりたいです。



院内研修 3/10 看護研究発表会

- ① 4西 PNSを導入して
～タイムマネジメントへの取り組み～
- ② 3西 脊椎手術におけるPCAを効果的に使用するための取り組みについて
～術前・術後の統一した指導に向けたパンフレット作成～
- ③ 包括 地域包括ケア病棟における内服支援
- ④ 外来 化学療法を受けている患者の気持ちのつらさへの外来看護師の対応・不安調査
- ⑤ 3東 効果的なポジショニング～褥瘡発生ゼロを目指して～
- ⑥ 回復 日常生活動作取得を目指した援助介入への取り組み
～職種間の視点の違いを比較したことでの一考察～
- ⑦ 4東 心臓カテーテル検査を受ける患者の不安にむけての取り組み
～指導パンフレットを作成して～



3階東病棟師長 村尾

看護研究発表までの研究過程は大変苦労したと思います。また、忙しい中、研究に費やす時間の確保が難しかったと思います。どの発表も看護の視点があり倫理的な配慮を踏んでいました。研究で明らかにしようとしている事柄は明確か、データ分析は適切かなど、出来上がり後、再度見直す時間がなく提出する部署がほとんどでしたので、見直す時間があればより分析された論文になったと思われま。講評も丁寧に読み込み、論理的にクリティークされていたと思います。参加者74名で活発な質疑応答となり発表会を終えることができました。ありがとうございました。

手術室 田代

平成28年度看護研究発表会が行われました。ステップのメンバーを中心として研究に取り組み、ステップ研修を通し計画書作成から約2年間の期間を経て、発表の日を向かえることができました。当日は、80名近くの参加がありました。多くの方々へ研究結果を発表することができ研究メンバー共に嬉しく思います。発表を通して、ご指摘いただいた研究内容や発表方法につきましても、新たな研究に向かってさらに努力してもらいたいと思います。研究を進めるにあたり、ご協力いただいた各病棟スタッフの方々、ありがとうございました。発表お疲れ様でした。

e-ラーニング研修「リーダー論」研修を受講して

3階東病棟 久玉

リーダーと言う責任を伴う業務は、私にとって荷が重いという思いがありました。「あの先輩のようなリーダーにはなれない。先輩に指示なんてできない。自分にリーダーは務まらない」などといった悩みもありました。しかし『リーダーの善し悪しは個人の「行動」によって決まる』と学び、自分の行動次第で変わることが出来ると学びました。今回の研修を受けるまでは、メンバーとして自分のやることだけやっておけばいいと思っていましたが、これからはリーダーでなくても他のスタッフの進行状況や、残っている仕事などにも興味を持ち全体を見ることを意識して仕事を行っていくことから始めていきたいです。

キャリア研修「看護管理Ⅱ」研修を受講して

4階西病棟 小山

今回の研修のテーマは目標管理についてでした。目標管理のツールとしてSWOT分析、BSCについて学びました。これまで自分の目標は達成度や割合(%)で評価できるものではなく曖昧なものでした。SWOT分析では組織の課題を明確にし、病棟の現状を把握することで目標達成のために自分がどう行動すればいいかが明確になります。そしてBSCを活用し、数値や尺度で達成度を評価できるようにすることで、さらに具体的な行動計画につながり、目標を立てた理由が明確になるため誰がみても分かりやすいものになります。個人目標もそうですが、小集団活動の目標もこれらを活用することで皆がその活動について共通理解し、同じ方向に進むことでより内容の濃い活動につながるのではないかと感じました。

一年間のプリセプター担当を終えて

3階東病棟 下田

今回初めてプリセプターを担当して、改めて自分の知識や看護技術の未熟さを実感しました。自分が指導した事が新人看護師の知識や技術にも繋がっていき、人を育てるという事は責任がある事だと思いました。自分も基本に戻り、分からない事はその日の一日の反省や振り返りをする時に一緒に調べて、共に理解していけるようにしましたが、仕事をする中で自分にもまだ余裕がなく焦る事も多々ありました。指導というよりも「教育」という観点を重視して自分も共に成長していきたいです。小さな目標の積み重ねが成長にも繋がっていくと思うので、まずは自分が焦らずに一步步進めるようにしていきたいです。

H29年度プリセプター研修を受講して

3階東病棟 久保

29年度プリセプターをさせて頂くことになり、私はこれまで指導者という立場になったことがなく、研修を受け「教育」とは「共育」であり、共に育つような関わりが大切であることを学び、少し気が楽になりました。また、自分の新人時代を振り返る機会となり、ローテーション研修では慣れない環境や多くの業務を覚えなくてはならないことなど忙しい毎日を送っていたことを思い出しました。そういった精神的・肉体的にも大変な状況で、いかに育ちやすい環境を整えるかも指導者として大切であることを学びました。自信の経験、今回の研修を活かし、プリセプターとして新人看護師の教育を行い、少しでも自分の成長につなげられるよう行っていきたいです。

スターティング研修「SP研修」



SP 2名の協力のもと、1事例3名ずつ、2事例を通し研修を行いました。緊張する中、メンバー全員それぞれの個性がみえる演習となりました。他メンバーの演習を通し、自分自身の患者との関わり方について振り返り、様々な気づきに結びつけることができていました。患者に直面する目線や姿勢・声のトーン・表情・沈黙など、コミュニケーションを行う上で大切な役割を担っていることや、患者に直面する時の工夫(患者への配慮)も必要であること等について学びを深めることが出来たのではと思います。この研修を通し学んだことや感じたことを、臨床で活かしてほしいと思います。

3階西病棟 原園(教育委員)

スターティング研修「ナラティブ発表会」

ナラティブとは、普段の看護実践での心に残っている出来事を言語化し語ることで客観的に見つめ直し、行動や相手の反応などから看護観を深める目的があります。今回の発表は入職しローテーションを終え配属してから約1年間の看護師としての関わりを6名が発表しました。終末期の患者、手術を受けた患者、後遺症のある患者との看護を通し自分の行動や悩み、考えたことなどがよく伝わってきました。自分自身での気づきや学んだことだけでなく自分以外の発表を聞いて違う視点にも気づけたのではないかと考えます。今回のナラティブで気づいたことや学んだことを忘れずに日々の看護に活かしてほしいです。

回復リハビリ病棟 飯田(教育委員)



院外研修

2/4~2/5「第31回日本がん看護学会学術集会」に参加して 外来 濱田

外来化学療法で大切なことは、患者が副作用のマネジメントできるようになることです。つまり、食欲低下があるときは食事形態や味付けの工夫をしたり、薬剤によっては手足症候群や皮疹の予防を自分でしなくてはなりません。しかし、患者によっては副作用のマネジメントをすることが難しい方もいます。外来患者は在宅療養されており、医療従事者がそばにいません。入院が必要な副作用を自宅で我慢し、加療が遅れるケースがあることを報告されました。そこで、積極的な看護介入として電話アプローチの効果について発表がありました。まだまだ課題が多い外来看護ですが、今後の外来看護の一つとして貴重な学びとなりました。

3日間研修「看護職員卒後研修実地指導者研修」に参加して 4階東病棟 中園

看護と教育は別世界のものではなく、看護を学ぶことで教育も学ぶことができ、豊かな看護が豊かな教育をすることに繋がるという事を深く学ぶことが出来ました。目黒先生の講義では、指導者を「蛙を睨むコブラ」と見立てお話しされていました。教育をする中で、自分と相手との関わり方によって絶えず複雑に変化する「相互性」が重要になります。指導者が威圧的な態度であると指導を受ける側は委縮してしまい、本来持つ100%の力を発揮することは出来ないことから、自分の関わり方次第で新人看護師や看護学生の成長の仕方も変わってくるのが理解出来ました。来年度プリセプターになりますが、まずは新人看護師が過ごしやすい環境を作っていく事が私の役割であると考え、研修で学んだ「相互性」を大事にしていきたいです。

「H28年度実習指導者講習会に」に参加して

4階西病棟 篠原

昨年の11月21日から2月2日までの42日間、実習指導者講習会に参加しました。講習会では看護論からはじまり、教育課程や教育原理、教育心理など様々な教育に関することを学びました。現代の学生の特徴や傾向、レディネスを知り、理解することが重要となります。臨地実習を授業の一つとして捉え、学生が理解できるように指導者やスタッフが指導していくことが求められています。学生が実習しやすいような病棟の環境(話を聞く姿勢や態度、行動など)を整えることから始めて行こうと思いました。学生に看護の楽しさを少しでも感じてもらえるようにスタッフに協力してもらいながら、学生の成長を見守ってまいります。

マイブーム

4階東病棟 大田

私のマイブームですが、昔から本を読むことが好きでしたので、読書が私の趣味の1つです。主に読んでいる本は推理小説やミステリーが多く、鹿児島に戻ってくる際に多くの本を手放しましたが、高校からずっと手元に置いている本があります。「トマス・ハリス」著書の「ブラック・サンデー」「レッドドラゴン」「羊たちの沈黙」「ハンニバル」「ハンニバル・ライジング」の5冊です。この著者は40年の作家生活でこれら5つの作品しか世に出しておりませんが、全て映画化され知っている方も多いと思います。何度も読み返した「ハンニバル」はカバーなどがボロボロになっていますが、初めて「どうなるのこれ」と、ドキドキしながら読んだ本なので未だに本棚に並んでいます。最近は電子書籍などで、本を実際に手に取って読むという機会が減りましたが、これらも時間を見つけて読んでいこうと思います。

ミニラティブ

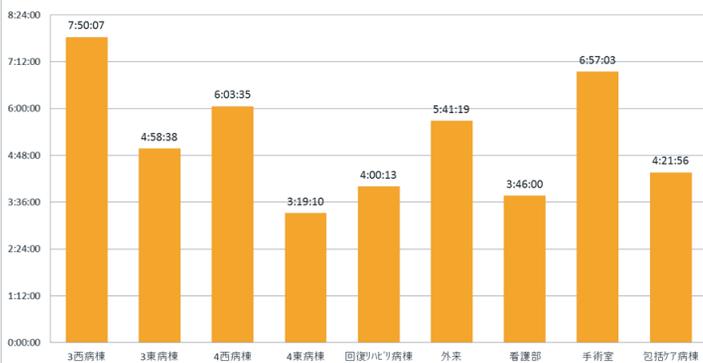
回復リハビリ病棟 飯田

2年ほど前に、病棟でリーダー業務を行なうようになったときのことで、入院患者が増えて、ある患者に部屋調整のために隣の部屋に移動してほしいことを伝え了承をもらいました。しかし退室後しばらくすると他のスタッフより患者が怒っているとの報告を受けました。すぐに訪室し話を聞きに行くと、いきなり移動しろと言われ何が何だか分からず、移った場所がトイレに近いかなど心配しており、自分の意見なども聞かれなかったことに怒っていたことがわかりました。急な入院などで自分の中で焦っており、説明し納得されたと思いこんでしまっていました。患者が怒っていた理由を聞いたことで、説明不足であり本人の思いなども聞いていなかったことに気付かされました。この件からは、患者がわかるように説明すると共に理解されたかの確認まで行い患者の思いまで聴いていけるように心がけています。これからも忘れずに続けていこうと思いました。

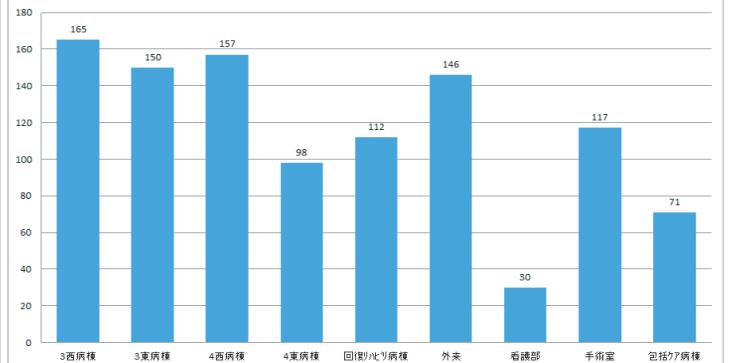
H28年度 学研e-ラーニング研修・ 視聴結果報告 (H29.1/31付データ)

学研e-ラーニング研修を導入して2年目の今年度は、2～3項目の必須視聴と3項目の選択視聴とし、研修報告書を提出することとしました。視聴時間数・視聴数が良かった部署ほど、研修報告書の提出状況が良い結果となりました。必須視聴を除いた項目以外で視聴数が多かったのは、心電図、災害時の看護・役割、褥瘡アセスメント、心肺蘇生、脳の画像が上位でした。臨床に活かせる内容が人気のようでした。また、部署別の格差もあり、視聴する職場環境や個人へのアプローチが今後の課題ではないかと考えます。ライフスタイルに合わせて、最新の情報をGETし自己研鑽してほしいと願います。(小牧)

1人あたり視聴時間(部署別)



視聴数(部署別)



編集後記

今年2月に、教育指導担当師長の小牧師長の後任となりました”久保洋子”です。久々看護部長を迎え、看護部の教育体制もリニューアルされつつあります。今は、4月に新人看護師を迎える準備に追われています。また、各師長をはじめ、プリセプター・エルダー、教育委員も新しい仲間を迎える準備を整えています。看護部の教育に携わる責任のある立場と自覚し、心機一転、皆さんと一緒に成長できたらと思っています。これからもよろしくお願い致します。